

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

広報ガイドライン

本書の目的と構成

目的

遺産群の世界遺産としての価値を正しく伝える

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、古くから「不言様」おしむすさまに代表される禁忌などの伝統とともに約一六〇〇年もの間、信仰が受け継がれてきた。

一方で、ユネスコの世界文化遺産として推薦されており、今後は多くの人々に遺産群の価値を正しく伝え、人類共通の宝として守り伝えていく必要がある。

そのため本書は、遺産群に関して情報を提供する広報媒体（パンフレット等の印刷物およびインターネット上の媒体等）に関して、推奨されるルールを提示し、遺産群の世界遺産としての価値を適切なイメージで伝えることを目的とする。

構成

1章 広報の考え方

遺産群の世界遺産としての価値を正しく伝えるための基本的な考え方を整理する。

2章 ガイドライン

遺産群の世界遺産としての価値を適切なイメージで伝えるため、名称・フォント・配置・色・写真の取扱いについて指針を定める。

3章 提供素材

世界遺産としての遺産群の正しい価値の理解と普及に向けて、写真と説明文を提供し、その適切な方法を示す。

目次

はじめに 本書の目的と構成

1 広報の考え方

1-1 遺産群の価値

1-2 価値の発信

1-3 デザインモチーフ

2 ガイドライン

2-1 名称

2-2 フォント

2-3 配置(タイトル・本文)

2-4 色

2-5 写真

3 提供素材

3-1 説明用写真

3-2 説明用以外の写真

3-3 推奨事例

3-4 禁止事例

3-5 説明文

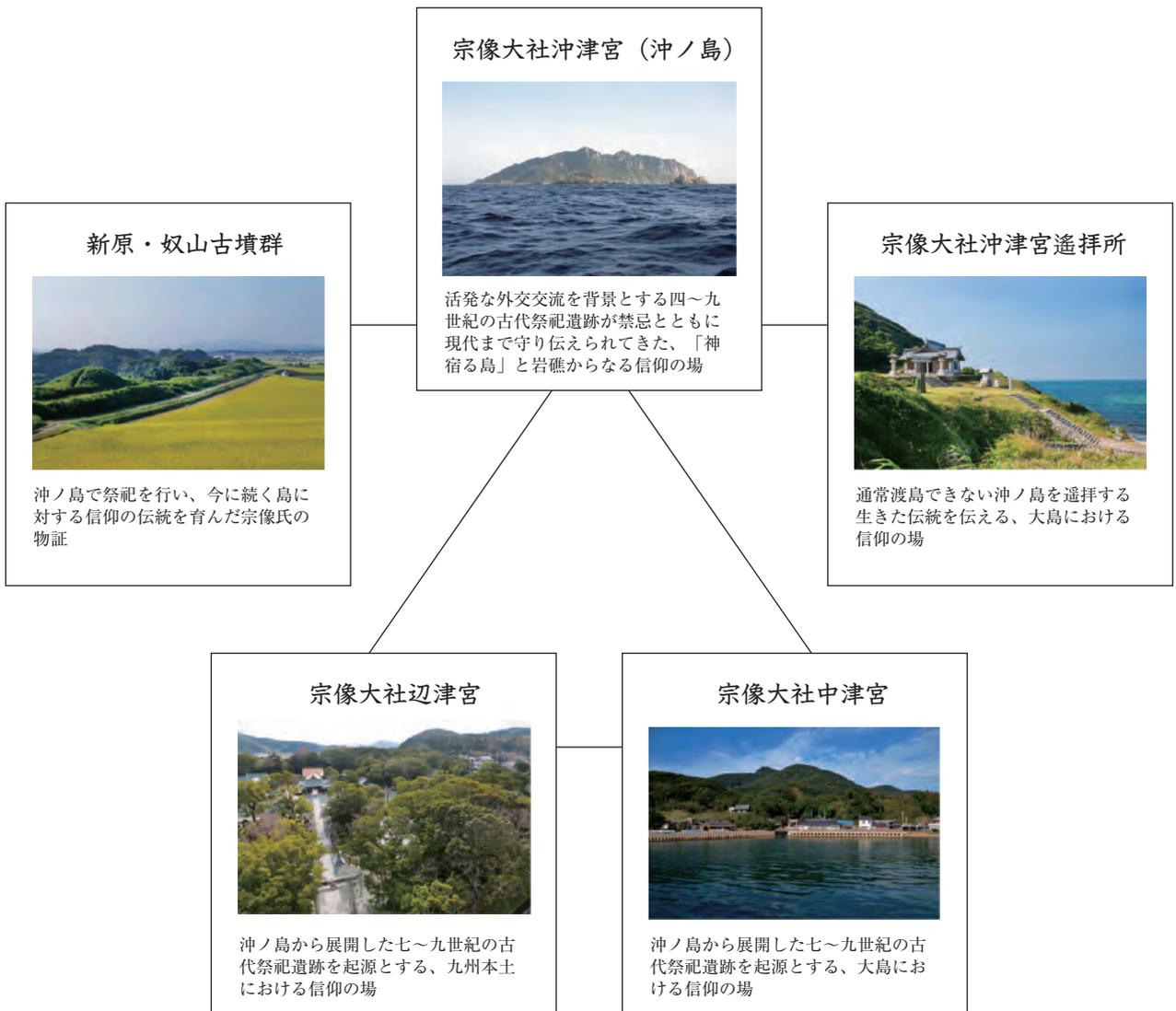
(巻末) 参考資料

1章 広報の考え方

遺産群の世界遺産としての価値を正しく伝えるための基本的な考え方を整理する。

遺産群の価値

- 「神宿る島」を崇拜する文化的伝統が古代から今日まで発展し継承されてきたことを物語る。
- 沖ノ島で始まった古代祭祀の変遷により、四世紀から九世紀の東アジアにおける価値観の交流を示している。
- 海上の安全を願う人類にとって普遍的な生きた伝統と明白な関連がある。



1 | 2 価値の発信

「不言様」をはじめとする厳格な禁忌により、沖ノ島や祭祀遺跡は、ほぼ手つかずのまま現在まで守られてきた。

本遺産群は、世界文化遺産として推薦されているように、今後はその価値を広く伝達し、保護の必要性を普及啓発していく。

沖ノ島の禁忌

「不言様」

沖ノ島で見たり聞いたりしたものは、一切口外してはならず、人々は沖ノ島を「不言様」「不言島」とも呼び、畏敬の念をもって現代まで守り伝えてきた。

「一木一草一石たりとも

持ち出してはならない」

沖ノ島からは一切何も持ち出してはならないとされ、江戸時代にはこれを破ったことにより祟りがあったという伝承がある。そのため、沖ノ島の古代祭祀遺跡は、ほぼ手つかずの状態で守られてきた。

「上陸前の禊」

沖ノ島へ上陸することは通常認められていない。上陸を許された場合や、日々奉祀を行っている神職であっても、必ず始めに着衣を全て脱いで海に浸かり心身を清めなければ、島内へ入ることは許されない。

(その他の禁忌)

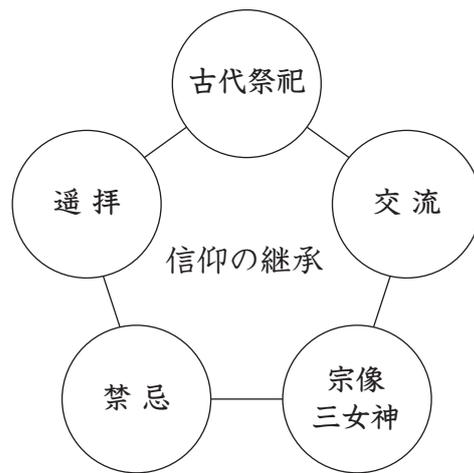
・ 四本足の動物を食べ
てはならない

・ 女人禁制

・ 忌み言葉

本遺産群の価値を伝えるキーワードから、文字や色、写真等を視覚的に表現するためのデザインモチーフを抽出する。

【遺産群のキーワード】



抽出

デザインモチーフ	
神々しい (文字等の余白)	←遥拝、三女神など
伝統 (文字の縦書き)	←信仰の継承など
自然 (色使い)	←古代祭祀など
畏敬の念 (写真の取扱い)	←禁忌、遥拝、三女神など

2章 ガイドライン

遺産群の世界遺産としての価値を適切なイメージで伝えるため、名称・フォント・配置・色・写真の取扱いについて指針を定める。

2-1-1 名称

本遺産群の価値を正しく伝え普及させていくために、言葉を正しく使い、間違った印象を与えないようにする。

資産名

「かみやとるしま」むなかた・おきのしまとかんれんいさんぐん
「**神宿る島**」**宗像・沖ノ島と関連遺産群**

・誤字脱字を避ける

(例) 「宗像」を省略しない

・一部の言葉を用い商品ブランドを連想させる恐れのある使い方を避ける

(例) 商品ブランドとして「沖ノ島ビール」

構成資産名

(読み方)

宗像大社沖津宮 (沖ノ島)	むなかたたいしやおきつみや (おきのしま)
宗像大社沖津宮遙拝所	むなかたたいしやおきつみやようはいしよ
宗像大社中津宮	むなかたたいしやなかつみや
宗像大社辺津宮	むなかたたいしやへつみや
新原・奴山古墳群	しんばる・ぬやまこふんぐん

・「宗像大社」は必要に応じて省略できる
・遙拝所の名称は旧字「遙」、遙拝の行為は新字「遥」を使用する

用語の解説

● **遺産群** ——— 本ガイドラインでは、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の略称として使用する。

● **資産** ——— 一つの世界遺産の物件全体を指す。

● **構成資産** ——— 一つの資産を構成する要素一つ一つを指す。

● **宮**(みや、ぐう)の呼称 ——— 「世界文化遺産」としての構成資産名としては「みや」を使用する。

212 フォント

使用するフォントは明朝体系および楷書、行書系を推奨し、ゴシック体系は極力避ける。

(書体例)

A-OTF 新正楷書 CBSKI Pro
あいうえお 宗像・沖ノ島

A-OTF 秀英横太明朝 Std M
あいうえお 宗像・沖ノ島

EG 教科書体
あいうえお 宗像・沖ノ島

ジリギン明朝 Pro W3
あいうえお 宗像・沖ノ島

小塚明朝 Pro R
あいうえお 宗像・沖ノ島

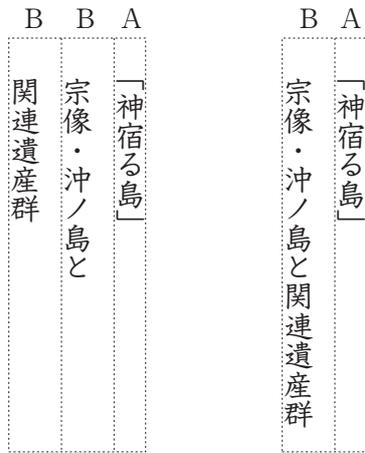
Helvetica Regular
ABCDE 12345

Garamond Regular
ABCDE 12345

2-1-3 配置（タイトル）

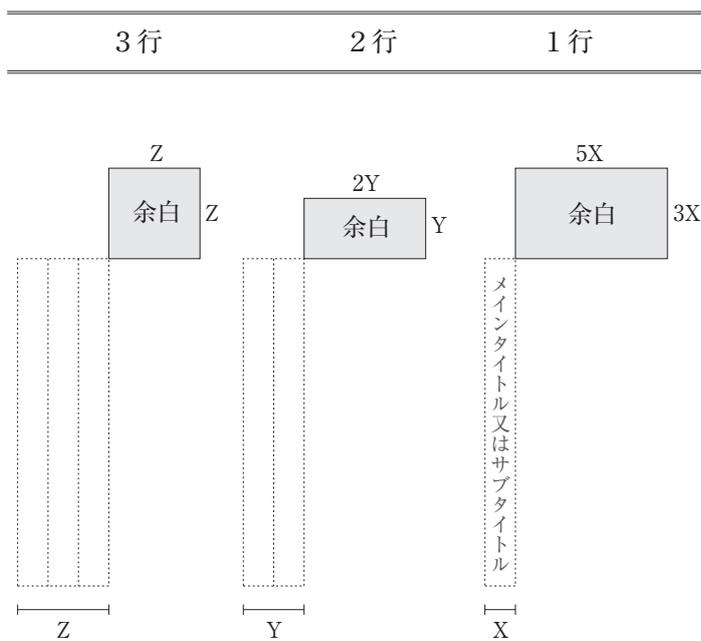
原則的に「縦書き」とするが、やむをえない場合は横書きも可とする。

資産名の改行については最大三行までとし、二行以上になる場合は、図1の行間に従う。三行の場合は、図1の位置で改行し上端で揃えるものとする。メインタイトルとサブタイトル周辺の余白は、図1下部に示す余白を最小とし、それ以上を設定すること。



行間 B:A=5:3

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群



資産名をメインタイトルとしてサブタイトルが付く場合、またはサブタイトルとする場合には、メインタイトルとサブタイトルの区別がつくように配慮すること。

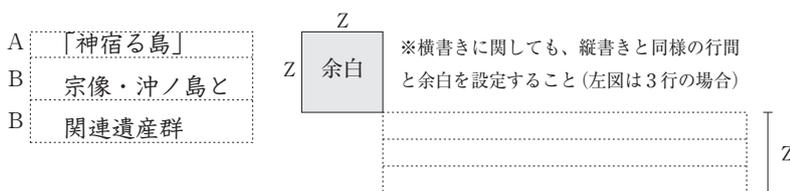


図1：改行時の行間と余白について

特定色

広報物で使用する色は、原則として沖ノ島の自然等の要素の色を踏まえた下記の特定期色を推奨する。自然に存在しないような色、例えば原色等は避けることとする。

多色使用を行う場合には、A系統、もしくはB系統のいずれかの同一系統内で配色を行うことが望ましい。また、色はプリンタや紙質等により差異が出るため、下記のCMYK値及びRGB値は参考値とし、カラーチップによる色校正を行うことを推奨する。

明度差

明度は色の明るさを表す数値で、高いほど明るい色になる。背景色の明度と前景色の「明度差が大きい」要素同士を並べることで、視認性を高められる。写真やイラスト等にさらに文字等の要素を重ねて配置する際には考慮する。

明度差

特定色

納戸色を抽出

B系統

灰白色

納戸鼠色

老緑色

減赤色

A系統

乳白色

納戸色

海松色

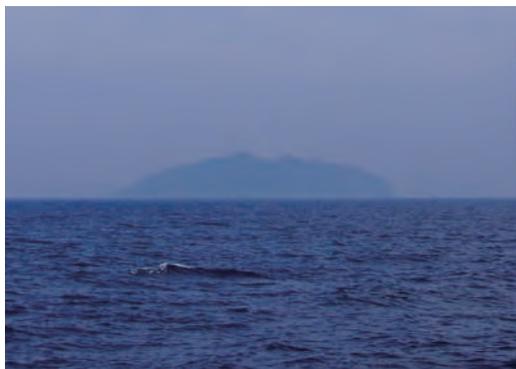
小豆色

灰白 はいじろ	老緑 おいみどり	納戸鼠 なんどねずみ	減赤 けしあが
C8 M7 Y14 K0	C59 M51 Y69 K0	C75 M58 Y59 K0	C47 M58 Y52 K0
R228 G218 B210	R113 G112 B87	R76 G98 B100	R146 G109 B107

乳白色 にゅうはく	海松色 みるいろ	納戸色 なんどいろ	小豆色 あずきいろ
C0 M5 Y17 K0	C66 M55 Y83 K0	C91 M58 Y50 K0	C49 M82 Y75 K0
R238 G227 B207	R99 G105 B71	R20 G94 B112	R138 G70 B71

【沖ノ島】

沖ノ島への立ち入りは厳格な禁忌により制限されているため、沖ノ島を遥拝する伝統が生まれた。遠く沖ノ島を望む場所に設けられた沖津宮遙拝所は、島そのものをご神体として拝む場所である。



沖ノ島

【社殿】

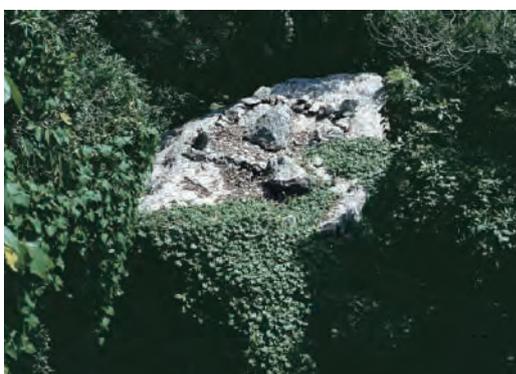
宗像大社を構成する「沖津宮」「中津宮」「辺津宮」の三つの宮は、それぞれが古代祭祀遺跡を起源として、現代まで続く宗像三女神をまつる信仰の場であり、この信仰は全国に広がっている。



宗像大社沖津宮（社殿）

【祭祀遺跡】

古代日本において、自然崇拜から次第に祭祀儀礼が整い、現在につながる信仰が形成されていく過程を証明する唯一の祭祀遺跡である。



岩上祭祀遺跡

【奉献品】

沖ノ島の祭祀で供えられた奉献品で、調査により出土した約八万点が全て国宝に指定されている。



金製指輪

「取扱い方針」

沖ノ島の写真を取り扱う際には、神宿る島として古来より大事にされてきたイメージを損なわないように十分な配慮が必要である。

「取扱い方針」

社殿は信仰の中心であるため、三つの社殿の写真の取扱いには十分な配慮が必要である。

「取扱い方針」

現在も宗像大社の信仰において重要な場所であるので、写真の取扱いには十分な配慮が必要がある。

「取扱い方針」

高い学術的価値がある一方で、宗像大社にとっては「御神宝」であるので写真の取扱いには十分な配慮が必要である。

※所蔵先「宗像大社神宝館」と付記すること

3章 提供素材

世界遺産としての遺産群の“正しい価値”の理解と普及に向けて、写真と説明文を提供し、その適切な方法を示す。

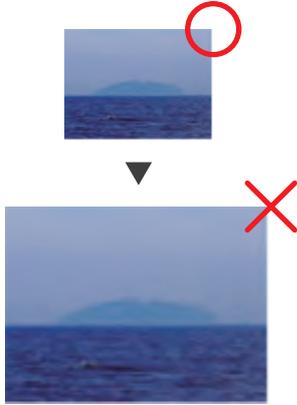
説明用写真

写真の提供にあたり、遺産群の説明を目的とする「説明用写真」と、ポスターなどイメージを伝達することを主な目的とする「説明用以外の写真」に区別する。

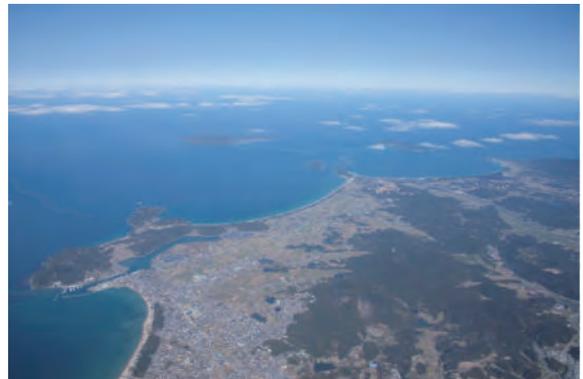
説明用写真は、価値の理解促進の観点から、誰でも自由に入手し、使用できる方法で提供する。提供サイズはW75mm、H50mmとし、それ以下のサイズで使用する。提供サイズを超えて使用する場合は申請を必要とする。

○使用時の注意事項

画像を引き延ばして使うと、画質が荒くなるので、提供サイズかあるいはそれよりも小さく使用すること。



33KB (150dpi W442pixel H295pixel) 沖ノ島 (遠景)



85KB (150dpi W442pixel H295pixel) 遺産群全景



66KB (150dpi W442pixel H295pixel) 宗像大社沖津宮遙拝所



72KB (150dpi W442pixel H295pixel) 宗像大社中津宮



40KB (150dpi W442pixel H295pixel) 宗像大社沖津宮遙拝所



88KB (150dpi W442pixel H331pixel) 宗像大社中津宮



67KB (150dpi W442pixel H295pixel) 宗像大社辺津宮神門



80KB (150dpi W442pixel H295pixel) 宗像大社辺津宮



91KB (150dpi W442pixel H295pixel) 新原・奴山7号墳



53KB (150dpi W442pixel H295pixel) 新原・奴山古墳群



87KB (150dpi W442pixel H295pixel) 新原・奴山25号墳



71KB (150dpi W442pixel H295pixel) 新原・奴山12号墳



62KB (150dpi W442pixel H295pixel) 新原・奴山34~39号墳



68KB (150dpi W442pixel H295pixel) 新原・奴山30号墳

3-1-2 説明用以外の写真

写真の使用は、イメージ伝達に与える影響が大きいことから、提供にあたっては必要に応じ、使用目的や使用媒体について確認する手順を設けるなど、一定の制限をかけるものとする。

【制限理由例】

- ・イメージを損ないたくない
(印刷物、グッズなど)
- ・むやみに画像を露出・氾濫させたくない
(SNS、移動車両など)
- ・信仰の対象ともなっており、使い捨ての物には掲載したくない(消耗品など)

※写真を使用する際は、宗像大社の信仰に配慮すること。

※宗像大社に関連する写真を商用で使用する際は、宗像大社の許可をとること。

規制の強さ (A>B=C)		A	B	C
提供写真 ※1		沖ノ島 (近景) 社殿 (近景) 祭祀遺跡	その他	説明用写真 (規定より大きいサイズで使用する場合)
申請		必須		
媒体	印刷物	チラシ、ポスター、パンフレット、書籍等	○	○
	屋外広告物	壁面広告、懸垂幕、バナー、捨て看板	△	△
	グッズ	絵葉書、クリアファイル、Tシャツ等	△	○
	SNS	ツイッター、フェイスブック等	×	△
	移動車両	バス、タクシー、公用車ラッピング等	×	△
	消耗品	包装紙、チケット等	×	×
	テレビ	バラエティ、クイズ、教育番組等	○	△
	WEB	動画、ブログ、ホームページ等	×	△
その他	個別に協議	△	△	

- ：画像を使用可能
△：使用について個別に相談
×：画像の使用不可

※1 解像度参照

350dpi (B4、A3、A4 以下/チラシ・パンフ、ポスター、書籍など)、
250dpi 程度 (B3 / 中吊り広告など)、
150dpi 程度 (B0、B1、B2 / 駅貼りポスターなど)

A



1. 沖津宮 (沖ノ島)



2. 沖津宮 (沖ノ島)



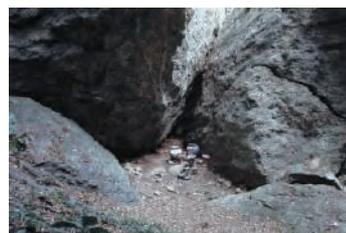
3. 沖津宮社殿



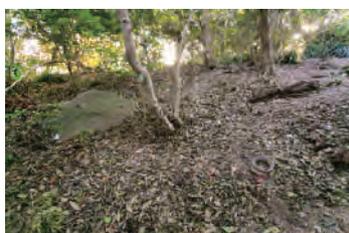
4. 岩上祭祀



5. 岩陰祭祀



6. 半岩陰・半露天祭祀



7. 露天祭祀



8. 中津宮社殿



9. 辺津宮社殿



10. 辺津宮社殿 (正面)



11. 高宮祭場



12. 御嶽神社

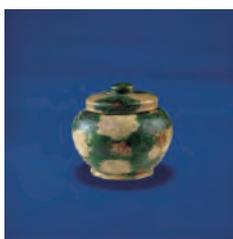
B



13. 金製指輪※



14. 金銅製龍頭※



15. 奈良三彩※

※
「宗像大社
神宝館所蔵」
と付記すること



16. 三角縁神獸鏡※



17. 馬具 (杏葉)※



18. 馬具 (雲珠)※



19. カットガラス碗片※

C

前項の説明用写真を「大きなサイズ」で使用する場合

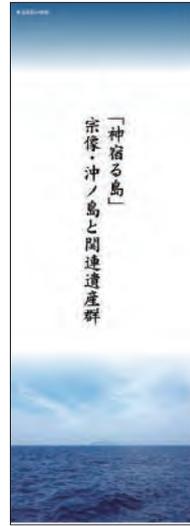
説明用以外の写真一覧

※一覧に掲載されていない写真も提供可能(応相談)

3-3 推奨事例

ここでは使用にあたって参考となる事例を示す。

「神宿る島」宗像・沖ノ島と
関連遺産群リーフレット



「神宿る島」宗像・沖ノ島と
関連遺産群「沖ノ島祭祀の奉献品」



「神宿る島」宗像・沖ノ島と
関連遺産群「ガイドマップ」



ポスター例（シンポジウム）



ポスター例 ※説明用写真を全面で大きく使うような場合には「申請」が必要になる。3-1-2を参照。



3-4 禁止事例

ここでは写真の使用目的上の禁止事項を具体的な事例を用い紹介する。



島に文字等をかぶせる



●文字や写真のかぶせ
遺構と遺物の不一致



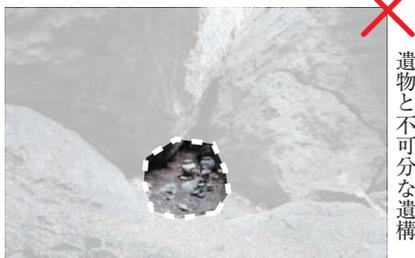
明度や彩度の変更



●色変更
イラスト処理



●縦横比変更



遺物と不可分な遺構



対象物が判別できない



●トリミング
対象物の要素のみ

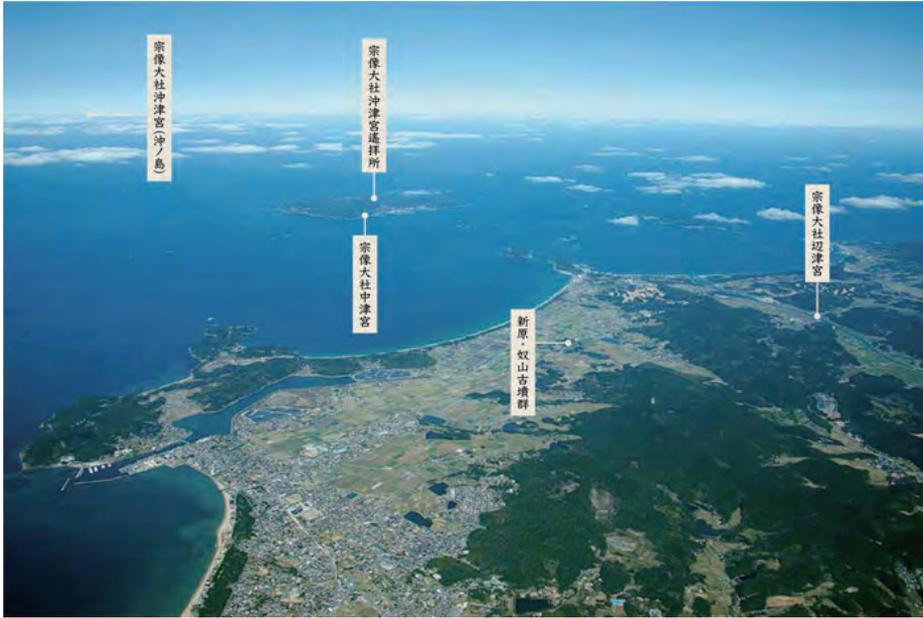


●遺産群と無関係のものとの併用

※写真を元にしたイラスト等も写真に準じた取扱いとする。

世界遺産としての遺産群を説明する際に推奨される表現を示す。 ※遺産群についての詳しい解説は313のリーフレットを参照のこと。

①遺産群全体の説明文



「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群とは

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、「神宿る島」を崇拜する伝統が古代東アジアの活発な対外交流の中で発展し、今日まで継承されてきた貴重な遺産群です。

400字

玄界灘に浮かぶ沖ノ島は、島全体が宗像大社沖津宮の境内で、四世紀から九世紀にかけて航海の安全を願う自然崇拜に基づいた祭祀が行われました。古代祭祀遺跡はほぼ手つかずの状態を守り伝えられ、調査で見つかった約八万点の奉獻品は全て国宝に指定されています。古代祭祀は大島の中津宮と九州本土の辺津宮でも行われ、沖ノ島への信仰を起源とする宗像大社の三宮は、宗像三女神をまつる信仰の場として現在まで続いています。また、禁忌や遙拝などの沖ノ島に対する信仰の伝統は、宗像地域の人々の間で現在まで受け継がれ、大島に沖津宮遙拝所が設けられています。

新原・奴山古墳群は、日本と大陸との海を越えた交流と祭祀を担い、信仰の伝統を築いた古代豪族宗像氏の墳墓群です。

200字

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、「神宿る島」を崇拜する伝統が古代東アジアの活発な対外交流の中で発展し、今日まで継承されてきた貴重な遺産群です。沖ノ島(沖津宮)では、古代祭祀遺跡がほぼ手つかずの状態を守り伝えられてきました。その祭祀は大島の中津宮と九州本土の辺津宮にも広がり、沖ノ島を遙拝するための沖津宮遙拝所も設けられました。新原・奴山古墳群は、信仰の伝統を築いた古代豪族宗像氏の墳墓群です。

100字

「神宿る島」を崇拜する伝統が古代東アジアの活発な対外交流の中で発展し、今日まで継承されてきた貴重な遺産群です。沖ノ島を起源とする信仰を現在に伝える宗像大社と、古代祭祀を行った人々の古墳群からなります。

② 個別の説明文

説明一覧



宗像大社沖津宮（沖ノ島）

島全体が宗像大社を構成する三宮の一つで、宗像三女神の田心姫神（たごりひめのかみ）が祀られています。四世紀後半から九世紀にかけて航海の安全を願う祭祀が行われました。出土した約八万点の奉獻品は全て国宝に指定されています。



岩上祭祀

沖ノ島祭祀は、巨岩の上で始められました。鏡、装身具、武器、工具などの奉獻品が、供えられた当時の状態で出土しました。二十一号遺跡では、祭壇の跡が確認されています。



岩陰祭祀

五世紀後半から七世紀頃にかけて、ひさし状になっている巨岩の陰で祭祀が行われました。調査時には、奉獻品が枯葉の下に当時のままの状態で見つかりました。



半岩陰・半露天祭祀

七世紀後半から、岩陰と露天との両所にまたがって行われた祭祀です。五号遺跡では土器を規則的に並べて祭祀が行われたことが分かっています。



露天祭祀

八世紀から九世紀まで、巨岩群から離れた平坦地で祭祀が行われました。一号遺跡の大量の奉獻品が示すように、何度も繰り返し祭祀が行われました。



三角縁神獸鏡

鏡は古来、祭祀用として重視され、沖ノ島では、七十面以上の鏡が出土しています。



金銅製棘葉形杏葉

馬の鞍から胸部や尻部に伸びる革帯を飾る馬具の一種で、朝鮮半島からもたらされたと考えられます。



金銅製歩揺付雲珠

馬の鞍から尻部に伸びた革帯が交差する部分につける馬具の一種で、朝鮮半島からもたらされたと考えられます。



金銅製龍頭
 水にまつわる神獣である龍の頭をかたどった飾り金具で、竿の先に付けて唇の孔から天蓋（てんがい）や幡を吊り下げたためのもので、精巧かつ力強い表現から、中国東魏で作られたとされています。



カットグラス碗片
 口径十二センチ程の器だったとみられ、ササン朝ペルシア（イラン）からシルクロードを経て沖ノ島にもたらされたと考えられます。



金製指輪
 朝鮮半島南東部の新羅の王陵出土のものと同様であり、交流によってもたらされた貴重な品々が神に捧げられたことが分かります。



宗像大社中津宮
 宗像大社を構成する三宮の一つで、大島の御嶽山の麓に宗像三女神の湍津姫神（たぎつひめのかみ）が祀られています。沖ノ島と共通する古代祭祀が行われた御嶽山山頂には御嶽神社が建ち、麓からは参道で結ばれています。



宗像大社沖津宮遙拝所
 大島の北岸に建ち、「神宿る島」として立ち入り制限されている沖ノ島を拝むための場です。沖ノ島に対する信仰の伝統を象徴しています。



奈良三彩有蓋小壺
 唐三彩の技術をもとに作られた国産初の施釉陶器です。近畿地方からもたらされたと考えられ、大島の御嶽山祭祀遺跡でも同様の品が出土しています。



高宮祭場
 辺津宮本殿の後方の丘陵に沖ノ島と共通する露天祭祀が行われた下高宮祭祀遺跡が広がっています。丘陵上からは釣川や大島沖ノ島へと続く海を望むことができます。遺跡の一部が高宮祭場として整備されています。



宗像大社辺津宮
 辺津宮は、宗像大社を構成する三宮の一つで、宗像三女神の市杵島姫神（いちきしまひめのかみ）が祀られています。沖ノ島と共通する古代祭祀が行われた宗像山中腹には、高宮祭場が整備されています。本殿、拝殿ともに国の重要文化財です。



御嶽神社
 沖ノ島と共通する露天祭祀が行われた御嶽山祭祀遺跡の場に建てられた神社です。山頂からは九州本土だけでなく、沖ノ島を望むことができます。



新原・奴山古墳群

沖ノ島祭祀を担い、沖ノ島に対する信仰を宗像三女神信仰へ発展させた古代豪族宗像氏の墳墓群です。前方後円墳五基、円墳三十五基、方墳一基の計四十一基が現存します。大島、さらに沖ノ島へと続く海を一望できます。

新原・奴山7号墳

五世紀に築造された、宗像地域では珍しい方墳です。一辺二十四メートルで、沖ノ島祭祀の奉献品と共通した鉄斧が発見されました。

新原・奴山12号墳

六世紀前半に築造された全長四十三メートルの前方後円墳です。周囲の幅五メートル程の平坦部(基壇)が特徴的です。



新原・奴山25号墳

五世紀に築造された同古墳群最大の円墳です。発掘調査によって周溝が巡っていたことが確認され、直径約三十五メートルの墳丘と推定されます。

新原・奴山30号墳

六世紀前半に築造された全長五十四メートルの前方後円墳です。墳丘は一部を除いてよく保存されており、散策路から楽しむことができます。

新原・奴山34～39号墳

六世紀後半に台地の周縁部に築かれた小型の円墳群です。この台地上は五世紀から六世紀にかけての長期にわたって墓域として利用されました。

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群広報ガイドライン

平成29年4月

発行：「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議

事務局：福岡県人づくり・県民生活部文化振興課世界遺産登録推進室

〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7

Tel：092-643-3162 FAX：092-643-3163

Email：sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp

<http://www.okinoshima-heritage.jp/>
